

共
州
本

成
形
圖
說

五
穀
部

十
六



特 別
二 一
144
15



加 /
號 144
卷 1615

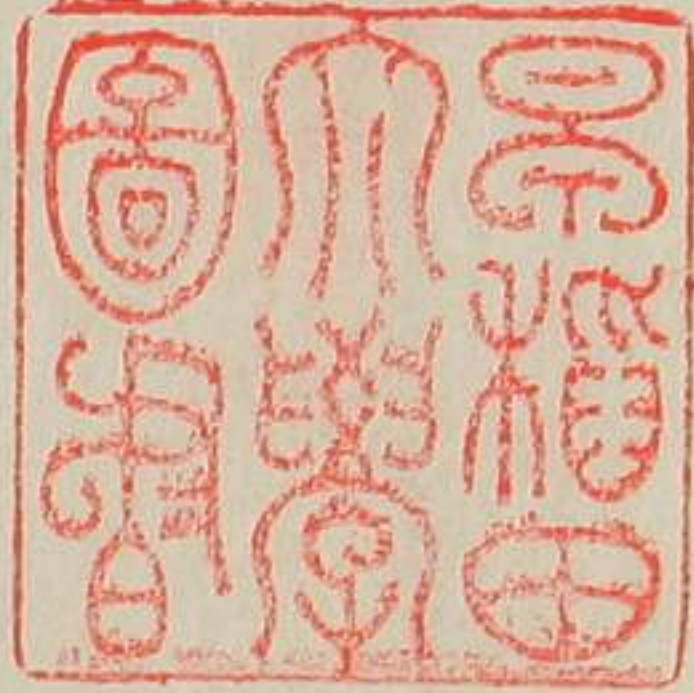
成形圖說卷之十六

目錄

粳 ワルミキ
粳 モトヲ
陸稻 ハタケイ子
私 シ
稻孫 ヒツチイ子
籼 オホキイ子

附早中晚

附染餅



成形圖說卷之十六

成形圖說卷之十六

五穀部類

宇流志禰書紀○延喜式ハハ米の一字と宇流志

宇流與禰按ハ米と志禰といハ稻米の字禰あり

真米志夜久乃米蓋字鏡謂志良介米の字鏡真稻白と志

て紛詞あり和名鈔引本州粳米一名粳米音じと

粳和名鈔引本州粳米一名粳米音じと杭音庚即粳

四民月令作粳稻○天工開物云稻種不黏者禾字或作種

紀稻曰秋米曰粳志久乃米天工開物云稻種不黏者禾字或作種

蕃名レイスト



うはと、獲あり延喜式に獲の字を書き里志称八年稻
 の約ツギともあり年ハ穀コメの爲あり小と対節の所よりとし
 くんえくすや此の米の中あてと結りて獲ウレよの
 著イナヒるれバいりて一光潤ツヤあるとさして各つく凡種凡種の春
 米コメと糯米ヌカを較シメみるに稔トクハ穉コ光澤ツヤあり此のハ即人の
 常トクに糧シメとし食す所の米ありそ申あて早中晩の三種三種あ
 り夫和漢土地と異コトよし米性の美惡美惡迫ハルるいそかき
 とらひとと主種主種獲ウレの時節時節わががさほりてハ益益善
 天乃同同くもる所あり但南南北寒熱寒熱に偏カヨるものは早晩日
 同同して清清くく況況やそ名品名品りては一國の中一郷

の實ふして各地の俗同一定なく或ハ同種ありて數十
 名又其形状と相分毫毫の差なくして又播種ハ町々
 子流布あるものと植れハその三四年は成実よくしと
 て種易して地そのなれハむり今種の穀々良莠
 の分るは故に徧く四方の俗種と考ふる及他日查
 究ておのけかき知るのありし
字書ニ種又特種鳥稜
赤稷白稷と皆種
 田應役丁之處毎年宮内省預准米來年所種色目及町段
 多少依式料功申官支配
義鮮謂色目者種白黒
為色也種名為目也
 稲名の中
 えらる最尚し其後の考に袖乃兒長日子穗多兒ふど

稲の名と詠あり今種諸物傳ふる所稲名亦多し○和
 名鈔引唐韻糲青稻白米也實白稻とあり
糲或按風
作糲
 土記穰穀之紫莖種稻之有青穰米皆青白者也又表淮觀
 殊俗云河内青稻新成白稷也淵鑑類函ニ身々あり
 和世萬葉集歌よとめらよ紗衣の速稲とイとに
 稲あり下徳國葛城郡の中ニ五中と云ありは此の
 早稲東國第一の早熟といひ一説ニ秋の初いと云
 く熟ぬきはると秋の初いと云ふなり又一説人の
 名ありの早稲ハよりわきめと云ふなり又一人の名
 あり
 早手手より義中
 早代匠材集
 早稷本州○時珍云六
七月收者あり
 早稻幾暇格物論○聞書
云春種夏熟曰早稻
 早禾
 農書 糲稻農政全書櫃田淺
浸處宜種黃糲稻

蕃名 フルーグレイピグレイスト

和ハ早まり波と和と通つるを按ワカレ早稲ハ若ワカレ稲あり若
苗ありふおりの合とてし稲と約シヨクは世とわら故
和世と称ナつり早稲ハ恐ハ若年ワカレにて中稲ハ中ワカレ年あり晩
稲ハ老成オトナキがふとし凡ツ万葉ワカレ早稲田早穂ワカレ字ワカレめお多くと
ゆお事記傳曰和依ナとて稱稲ナも限もは清ナとて和世と
下に連ぬ言と事ナとてつるあり又万葉に葛飾早稲と
あるは下總國葛飾郡とて稲とて稲とてとてとて新嘗ニハ
祭ナリとてつる此奇の申ナはふとてとてとてとてこの人
ハ内よこれとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

嘗ナとてとてとて使ナとてとてとてとてとてとてとてとてとて
よし袖中抄ナと載ナつり神樂歌ナと早稲田ワカレの名あり今名字
田ナと書ナ又源大府卿集ナとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
のあり田ナとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
次は播磨ナの家とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
河副ナとて
とて
いとくおハ早ナとて皇極紀五月熟稲始見ナとて

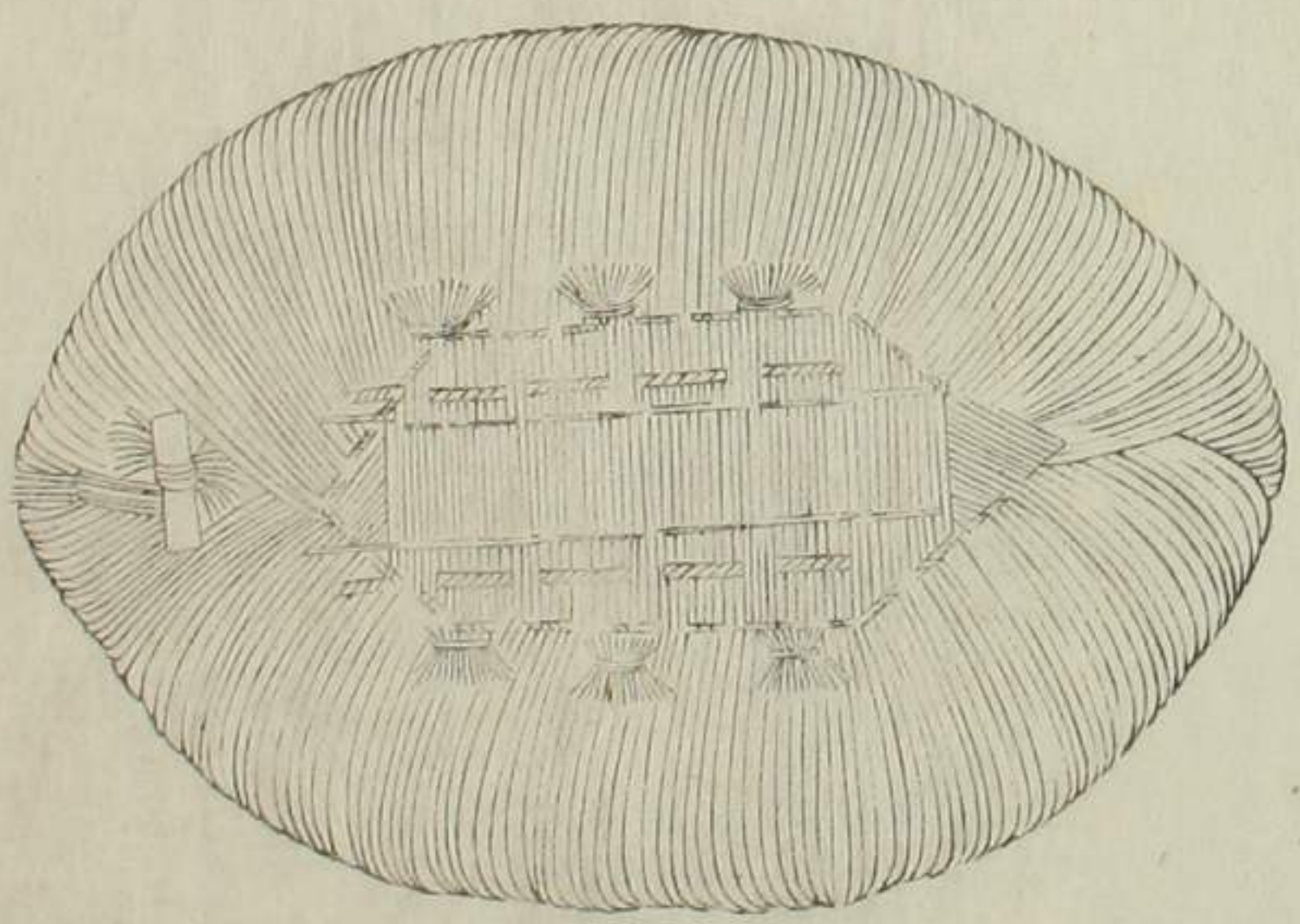
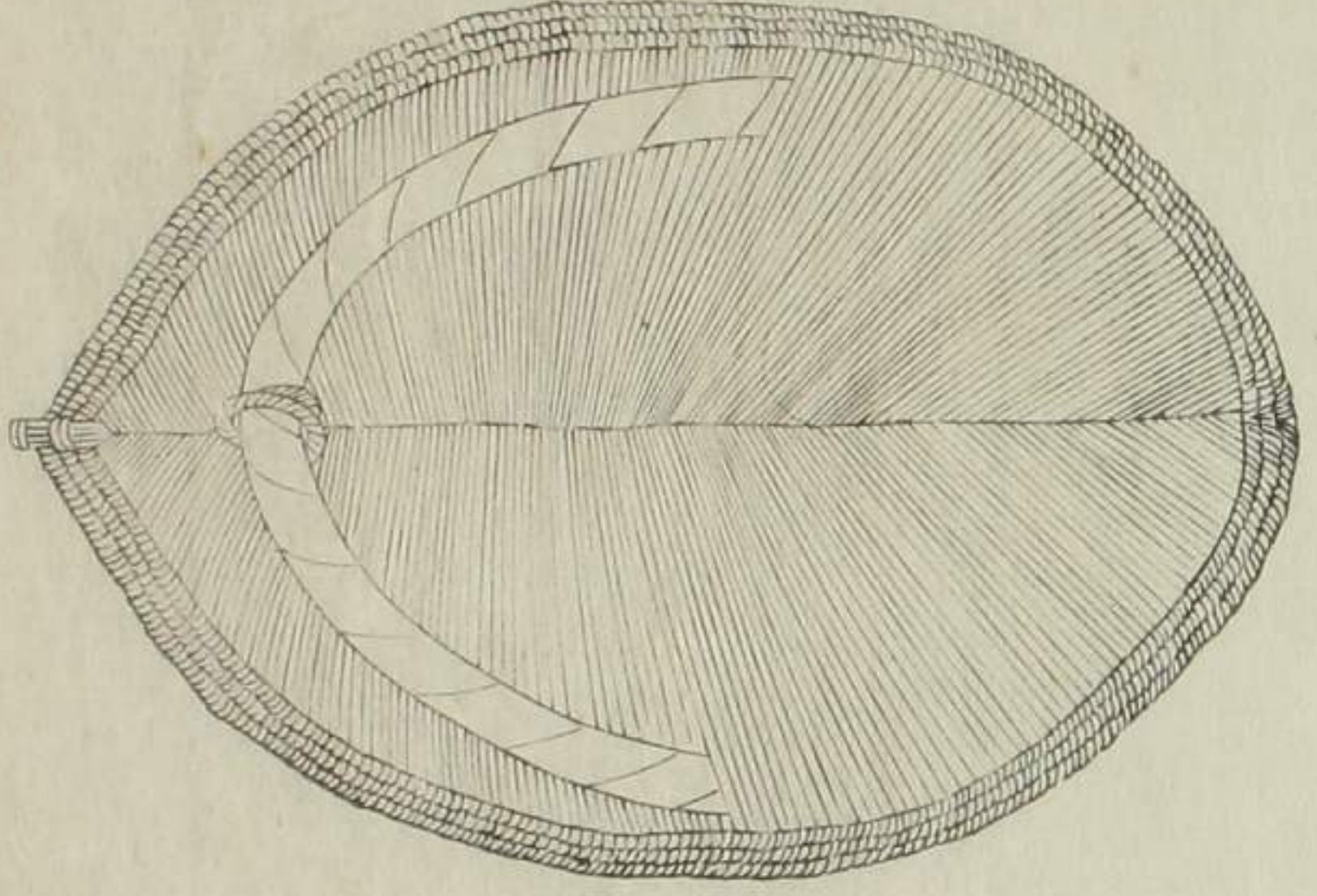
福よあゝを初夏より秋令を仍ふあり
 今一節早稲とらゝもの元子し芒稈一節出まは
 即ち成るる月定まはぬ熱やりのある一粟の兩種とら
 食し又根子福とらゝものは根花野々サカサナの根は
 伊勢早稲 尾張早稲しササ 肥前芒稈白米 五島芒稈赤米
白 小島子福ハ多産をゆるよ上ふあり此等ハ其始種
 と波せし本土乃名と傳ふる耳又越中子福あり是ハ北
 國の種なり 房前 刈草 熊谷 袖兒 緑葉 荒芭
 湯田 笑樂 吾待受 葉隠 網子 芭茅 小穂星
 楊柳 根乳 葉潤 大早稲 ぶどの名をくさるしか

し子福ハ種子と節より廿日めよみに浸て廿日とさ
 てれらば十日めよ乾しゆいよりおんの湯と侵の上よ
 日灌カクムシ送ふとあらい芽と出しくるは二月啟彼岸の節よ
 播て四月初旬ハ皆秧と拔起て分栽より七月中旬ハ
 獲収むじつもの粒少く味薄し蓋稲は芒乳とハサは堅
 好ヨクむ子福ハ澄み初秋ハ穉成とのある實つら者なり
 我藩の南島雪時と霜墮オチざるや急人さしハ種植て五月よ
 ハ浅熱ぬ是斯方の子福と似るや又ゆゑに早稲チハキナクとて
 肥前より類わり天工開物所謂其冬季播種仲夏即收者
 則廣南之地無霜雪故也とらるるがふとし然とも衿陽雜

録と関子朝鮮早稲の種穀ふと裁り朝鮮ハ極ての宜し
 土多れともふも土よね魚の子縮りるもいともあり○凡
 子縮を促すの利ハ粟七八月の節よむれハ洪水入風
 子遇て縮とま子よとの所よな子縮されハ夏月迄
 穀の種よ縮と續て入よ漸せの利と盡し農氏も食物よ
 困ど又麥種と播よ力にゆるり々東陸州ハ推陽の地
 よて時令ハ西南より極寒と一いつともと田よ早
 稲と播ゆる農夫終中より田越るも急春草れ根と断
 て土の膏澤とまよとつよされとも田中一甲馬通原
 ハつよよ及ぎ本皮葉葉或ハ塵苔諸芥とも播るも田中

天子御州儻圖 柿め又とハ南都春日の社家米七升
 つく下行よて一足と促さるるとも

稲程 一筋 表裏 取合 先と 後と して 細さ 稲穂 縮む



裏ハ 皮履 ぬ程 あり 麻の 糸を 縮め たり

成形圖說卷之十六

鼻緒ハ常の州履れどし
 横漕ハ白奉書紙よて包む

鼻緒の飯と紙
 よてつむ

一、おろしと土と反はふと耕通して春月揚戸嫩葉と芽と
 候て石草等と地れく糶とまの三月中秧と拵て栽
 与せり所老農田畝と附割て秧と拵は者に拵川と
 米の類一二本と一科とし二尺四五寸間許を根深く土
 よ入さるやうに拵るまうかく稀疏はあさゆゑ苗根子
 日あさるよく急滋茂やま一科よると之中飯莖よと踵
 と地又鋤転と初のととく米の葉よととて(おろしと土と)
 田地一おろしをかくして七月は既上刈先ゆゑ田戸鞆取
 おしてそ和と得たり又曰く田租は段よつと糶米一科
 八斗又藍苗等の年税あり拵よと一科一二本拵かし

て蒜との間穉あるものハ土地を穉まうまうまうゆゑ
 崔寔崔寔四民月令云三月可種粳粳米美田欲稀薄田欲稠是耳是耳是耳ふまは米粒をのり
 しきののりまうまう臭氣のあつたものば米穀狼戾して
 收穫より磨りよむよと鹵莽ふるかゆゑまうまう濁臭
 におろすのよハ土地濁く厚うゆゑと初より田地は肥養
 と施よ及は山形等の田ハ子秧と栽るのよと拵中一
 入与て川泥を拵るの濁泥と田へ澆つと一度のよとて
 再糞を用うるよと酒より又秋田傾のよ穉米ハ浪華
 に致して秋の彼岸後より酒乃醸醸やり俗よ之と
 何ぞの造ると云農業全書曰早稲ハ苗代よおろすよ十日

あり初苗と取らりさうり中田ナカノ田ノ十日ちどつて中と
 並て次芽と種子と前食し九月の節より夏むまての雪
 梅雨の水と交て苗とさすも夫下一回の雪ユキありま
 日し急ヒヤク中ナカ路ミチしてう急ヒヤクさうしあハ後ののみ入と
 冬フユも必カナラま少しいんともあまハ暖ヌクまあふにたひて
 上に雪ユキせらるる氣の感カあして枝葉エダいさうゆれとも立
 根ネ子コ結ムスの入イれともくふくあまあくれとも東ヒガシ水の稲
 ハ三月次雪ユキ氷ヒラの解トけと流ナて即ト苗コ代トとし四月シ月ツキ種タネと
 とも七月シチ月ツキ初ハジメまでハ僅ウチよ一二尺シヤク計ハカめて枝エダの氣キとうけ
 てさして立タ延ノと種タネのあると突ツつりとも山ヤマわけともさよ一

月の中ツキに成ナりてうとも是コノ急ヒヤク物の日ヒ氣キとゆて成ナ熟ジュクの程ハジメ
 ありあうして東ヒガシ水ミヅのノ子コ縮チヂムの突ツのり反サカて
 よろし續ツ貫ス行キの早ハヤ稲イネの莖カサハ長ナガく穂ホ粒リ多オホく味アジ甘アメく臭ニホ香カ
 しまハ地上チノの氣キとうけて一概イツに生オ立スがあらう遊オシ稲イネハ
 莖カサ長ナガ低ヒキく穂ホ粒リ少オホく味アジ淡アハきハ地上チノの陰カゲ氣キと違ヒて生オ立スば
 ありさうれとも是コノ東ヒガシ北キタの地チも遊オシ稲イネの粒リ少オホく味アジ
 しとさハ不通トウツの程ハジメのノ康ヤシ富トモ記キの尾ビ花ハナ粥カシといふは
 禁キン中チュウにハ朔シツ子コ縮チヂムの黒クロ燒ヤキと粥カシとさうともさハ
 尾ビ花ハナと黒クロ燒ヤキとさうりかき粉コとさう物モノ

中手 字類鈔シ藻塩草ソウシホクサ
 中田ナカノの縮チヂムとさう
 中手ナカノ稲イネ夫ソノ本ホン集シツ吾ガさうすての縮チヂム
 成形圖說卷之十六
 九

さぶ出りるるしと致養ふあうてのいぬ
とハ申稷より八月のとさしりつとふ

二番物 俗云
二番

早

中稻

遅稻

以上本州綱目時珍
云八月収者為遲稻

半夏稻

蔡邕月令章句
十月獲稻人君

嘗其先熟故在九月熟者謂之半夏稻按之半夏稻亦中稻
の事也固の十月ハ今の八月より禮記舍人懸種種之種
註後種先熟曰種亦作稷毛詩黍
稷重陸疏上も同じ周禮亦おれし

蕃名

中手ハ即中半稻ナカトルて手ハ年の幼コるより祝詞式ハ奥

手テのハハ奥津御年ナカトルとらるるもはし年の志ハ勢

と通ふりゆるハ和勢とといふ又年稻と幼て志祿とハ

いり又幼して麻アサのハハあさてといふと万葉

とらるる

申々の稲ハ二月春分の頃種を撒入てより五月五日

八十八夜の節より子苗と拔て裁けあつて八月中旬

より先より又十月より熟新と何り凡申稲の熟る

種よりし申香子カシコハささく粒コ多し稗米とも白し飯

よ炊ておろくも釋ソクハハカ葉カラよりハ種タネさるる粒とも收實ウケを

少とてさるる種タネと只染盛シメも何り

稲ハ一種取芳氣以供貴人收實甚少滋益全無不足尚也

本州蘇頌云香稷長白如玉可充御貢即其の物なり又農

政全書ハ香子といふ致富全書ハ寄穂ヨソハ穂ホ米共

香稲ともさるる皆同種なりし累兒カサリコココ米白し

ハ前よいつるがふと穀の多かれハ特晩禾とあるよ
 うもどはるは夏より秋晩の穀とのを解は手といふ
 小何あるわあともあなつて次

はらの種りてハ中稲とおれし所謂先種後熟あり四月
 中旬よりして小苗と川さ六月六月までハ種りせり
 十月十一月よりありて九月十月し又片山りの溪
 田あるよハ十二月決あつてはるのありかたはよハ
 毛込毛硬く猪糞よりの種つゝなるはよのやうには
 あり存藩よては赤粟といつてもの上等とやもせよ赤
 く稔淡江く面白し此作 白京 又青白 楊兒 海馬毛

- | | | | | | | |
|----|----|-----|-----|-----|--------|----|
| 鱚子 | 大堂 | 石堂 | 大實延 | 赤小實 | 白糶 | 石子 |
| 小節 | 双無 | 小塩蔓 | 霜被 | 白笑 | 四十床反 | 佐安 |
| 香寄 | 十節 | 十節 | 十節 | 音不 | あとの俗稱あ | |

晩稲田ハ竹籾で露やげよあつてはくえゆめ
 が竹葉もはるるあふハ人の用めといつて地まの
 懶とい甲斐あつてぬもはる玉苗のせつらて田圃
 のまといををいふを眺がいよくいさよよし種る
 稲のおつたあつてハ竹籾あつてはくえゆめあつて
 びしよはふまふりてはくえゆめあつてはくえゆめ

云地土高下燥溼不同而同於生物生物之性雖同而所生
之物有宜有不宜為土性雖有宜不宜人力亦有至不至人
力之至亦或可以回天况地乎宋太宗詔江南之民種諸穀
江北之民種秬稻真宗取占城稻種散諸民間是亦大易哉
成輔相以左右民之一事今世江南之民皆雜時諸穀江北
民亦兼種秬稻昔之秬稻惟秋一收今又有早禾為二帝之
功利及民遠矣又何是宜乎今日之急を起す一時的利
と資の術とらつとも凡土宜を天地の旨おのり
南山の突おわれハいりて人力を盡しつるも
ハ回天の術と致しかし物とて高麗を就ハ重遠

と成迂濶とて亦迂とて迂と何り迂世文祿の頃始
て甘藷と蕃船と獲てつるより西南の地ハ山野肥磽と
ふく播殖して百姓以下今日の急を起すの急ふさ
るハふしとてと稲米のせと羸羨ふさハ何事ぞ甘
藷のたとてハ其種播せし易簡とて水田の作苦一つ
且旱潦風旱とて思ふの患ふさハ稲種イナの耕耘ツリカマハ大や
にあり初るる所とありぬし又稲ハ不熟ともありハ
甘藷出づる所とて一方よりのありもあつる
し凡むり甘藷の歌ありて似鐘むるも何と
よと文六乃との歌ありて海かば終よ似て記を

るよりか多き所を多んとし、一方よりれば、一方は
 したるは、いふれば、漢籍清は、佛書とつらむと、瘡疹ハカサシ
 傳ソミワツ深り、井落カライモ外とて、烟葉タバコとあり、下痢ゲリまでつち入て、此
 よよしと、昔は彼よハ、あつと、と、萌キサヒる、勿為禍先、勿
 為福始、夫禍先誠不可為矣、福始亦不可為、此の傳あり
 只何事とむじり、海よりよ、こ、ハ、何事と、宋太宗真宗あ
 との占城チヤン福ハンイは、獲エる、と、利氏の第一と、や、は、と、地、の
 さ、よ、し、よ、よ、よ、と、凡稷稻ワシニコの春秋と、度て、滋登イデキゆる、是、此、
 方水土、水、魚の、お、と、と、て、乾中オクテ、晚オクテ、播ヒキる、と、宜ヨク、よ、く、味、と、と、れ、
 ち、る、ハ、ち、し、我の沖繩オキナハ、大寒オホサムイ、種タネ撒ヒキて、四五月ハ、い、れ、獲カキ

収カキむ、ま、より、新方アタラシへ、瀬セき、海ウミ島シマハ、六月ムツキよ、獲カキる、ま、より、
 ま、い、部ベ方ホへ、ち、り、よ、益トク、故コ島シマハ、七八月シチハチツキよ、かり、と、亦モト、遂ツキ、よ、部
 方ホへ、む、り、て、ハ、十月ジュウゴツの、末マタヘよ、も、刈カと、は、を、く、此、其、氣、候キコウの、前マタヘ
 後ノチ、さ、大、雪オホユキ、約ヨク、一、月イツキを、と、り、く、ね、差サ、ど、か、し、天、地テンチの、雪ユキ、陰カゲ、陽ヨリ、第
 て、地、物ツクリモノと、相、無アヒツル、む、ハ、ち、づ、ま、り、物、さ、れ、ハ、其、水、土ミヅツチに、か、あ、と、
 ぎ、な、り、の、は、い、り、ち、ど、人、力ヒトカと、な、せ、る、と、て、と、も、性セイ、或、偏ヘン、て、
 利、益リキと、少オホ、き、理ツツ、あり、と、西、小、月セウコツキよ、刈カる、は、南、島ナンシマの、福トクハ、と、
 と、より、此、方コノホよ、と、子、孫コノミハ、皆、晚オクテ、鬆マツ、て、味、淡ツツ、く、と、あ、げ、る、西
 土、蕃、地ツツチの、福、米トクメの、お、と、し、は、ち、と、耕、作コウサクハ、ち、ち、生、可、節ナツメと、違チガ、つ、
 を、天、性テンセイよ、此、の、成ナリと、あ、る、と、り、ハ、時、節トキノセお、よ、と、安やす、ま、し、と、と、と、



秣稻

法橋洞龍美清筆

去て一息と我地よわくどと農業は勤るに外なし也
 以味よふふれ利巧と加つてハ却て徳を失ふと多し
 元耶律楚材每言興一利不若除一害生一事不若減一事
 と此の謂あり

餅米 新撰

餅乃米

和名

毛知志福

餅福

稗

音悞俗作

標

和名

鈔引

蒼頡

篇

標米

徐

音徒爾雅

廣韻

稗

之粘也

天工

開物

稻種

粘者

米曰

標

徐

音徒爾雅

廣韻

稻也

詩豐年

多稼

天工

開物

稻種

粘者

米曰

標

徐

音徒爾雅

開物

稻種

粘者

米曰

標

徐

音徒爾雅

廣韻

子固

請種

粳乃

使一

百

五十

畝

種

林

五十

畝

內則

云

菽

麥

黃

稻

黍

梁

秋

惟

所

欲

七

者

以

稻

與

秋

稱

林

為

標

稻為種梗即杭洲明種林以取酒
是也有此確證可以正本艸之誤
大師古紀

蕃名クレーイスト

毛知とハ粘氣河りて物に附着すの粘り
張りのハ引粘りが粘り亦おれし天工用物
又保食ともいふ食亦毛知といひしと云

今村名ハ餅田係
凡糯亦早中晩の種あり多く中晩の二種あり糯ハ軟
山て粒大あり西州より早糯といふは七月比熟む餅

又保食ともいふ食亦毛知といひしと云
尾張あり

又保食ともいふ食亦毛知といひしと云
尾張あり

又保食ともいふ食亦毛知といひしと云
尾張あり

又保食ともいふ食亦毛知といひしと云
尾張あり

又保食ともいふ食亦毛知といひしと云
尾張あり

又保食ともいふ食亦毛知といひしと云
尾張あり

又保食ともいふ食亦毛知といひしと云
尾張あり

て而糯ハ多きよし大畧
臘脂深黒の濃
笠糯

微あり 蝦腹 近江子 稗米皆 目黒 稗米黒く
御傘 稗米共 綿白 稗米微

共より稗米 穂生 紅米向し 御傘 稗米共 綿白 稗米微

白松 之糯 粒細く之米の形に似たり 餅に似たり

岩摩 葉稀 饗蔓 鶉鳥 古凡禮 擇穂 谷渡

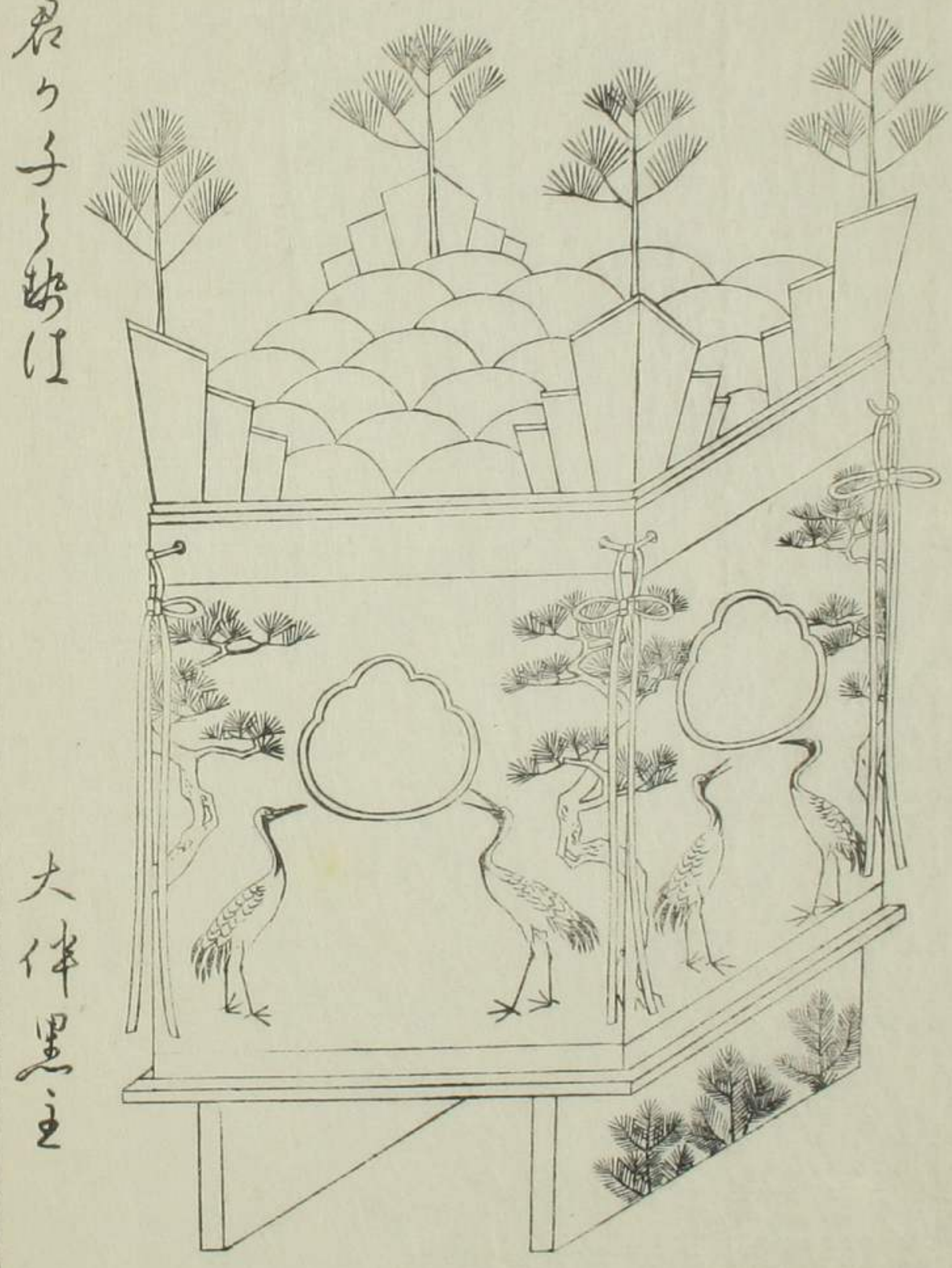
落不待 岩越 頸長 身陰 疏稀 袋毛 漆稻

泥田 坪瀬 重累 糯米は農夫の利あり

といつても虫つきや多く又粘糸の属好味あり
れハ多く作りざし赤石候米上めて風味佳し餅に
作りて脚つよしといつり

延喜乃御宇近江國より大嘗會に供御ありし時

いよみ
乃原
かきみ
の山
はら
たれ
はうぬ
てそ
尺ゆる君う子と出は



大伴黒主

糯米ハ昔祖神ノ薦享ノ樂威ニ供給あり字鏡噴鈔等ニ
餅ノ一字もて毛知此と訓也又職人歌合もえりて
は秋の田乃向の穠もちのねさにつづる山の深の月
今も知とのつゝハ畧るる也禮内則註ニ資稻餅也炊
米持之以豆為粉糝養上也爾雅翼云合蒸則曰餅餅之則
以為表餌言夫正月元旦の禮節ハ神武天皇の御宇ニ
始め行はし事本紀もるるなりて威首子餅と製て饗
餅と稱ふトナ日神磐戸もありてせおもるは時
其御象鏡ニ講なりて祈中りるも再ハ磐戸明鏡といと
つ佳例もやうて新玉の身まぬる春の初はりの常時

もろ又しとうつよ野る明ぬる加慶よまんきくつ
次いあり塘河浚治度百首えりよりハ我とち
いのまをかくさうれしき形とやんしてそは
燕朝樂 事云正
月朔日以春餅為上供○對類大全註麥米粉又餅と加知年
做成餅形如鏡入於爐内烘熟蓋始于戰國
といふととて言は問答子京師五條天神の勝餅より認て
この餅と食ハ揚子猪とて功能たりよしといは傳ハ孫
餅ハ本餅あり山崎垂加詩子永言少彦名經濟起蒼生除
以世間靜神風餅木馨少彦名ハ即五條天
神とて本朝醫の祖あり蒼生永く々の遺澤
に頼とてとてさよむり季冬本餅と祀ふたり藤堂樂菴
説子加知年ハ搗飯とてべしといは俗ハ家鎮禱塵歌傳
と書ハ餅字なり 正月齒固餅ハ建武年中行事引江

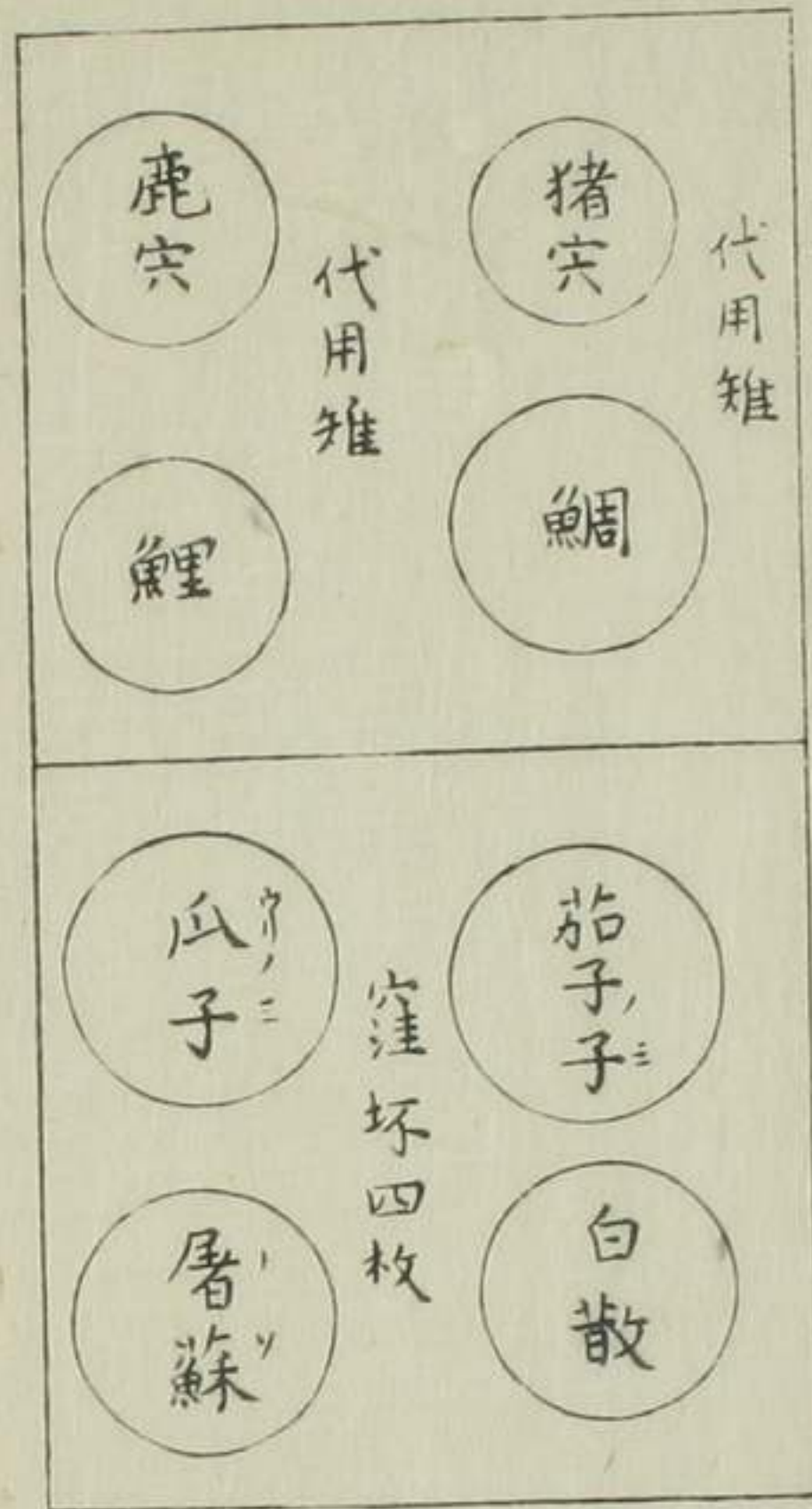
次第抄曰齒謂人年齡也齒固者延年固齡也解曰稱御節
供是乎按俗所謂節供ハ 天朝佳節の供御といふ
已由東サ中延喜式ノ節供の各々々ぬ源氏初巻の巻子
とてかゝりてめちの序とてりよせて子年の形と
志すまといふ又枕子我まは漢葉はよといは延了齒固
の供ふりしてけりいためは東鑑に齒固賀けあり荆楚
歳時記云元日食膠牙錫取膠固 ○人生て後ハ餅とてく
之義とけりも新やとわが也 天孫奉以潘竹屋の宮里と
賀と陳けりといふむり
して傳授しとてあり何ハ釀天甜酒又為飯嘗之と本紀
よ志とてれしとてとて之と産書とて通證曰凡皇子

類聚雜要鈔

供御脇御齒固六本立

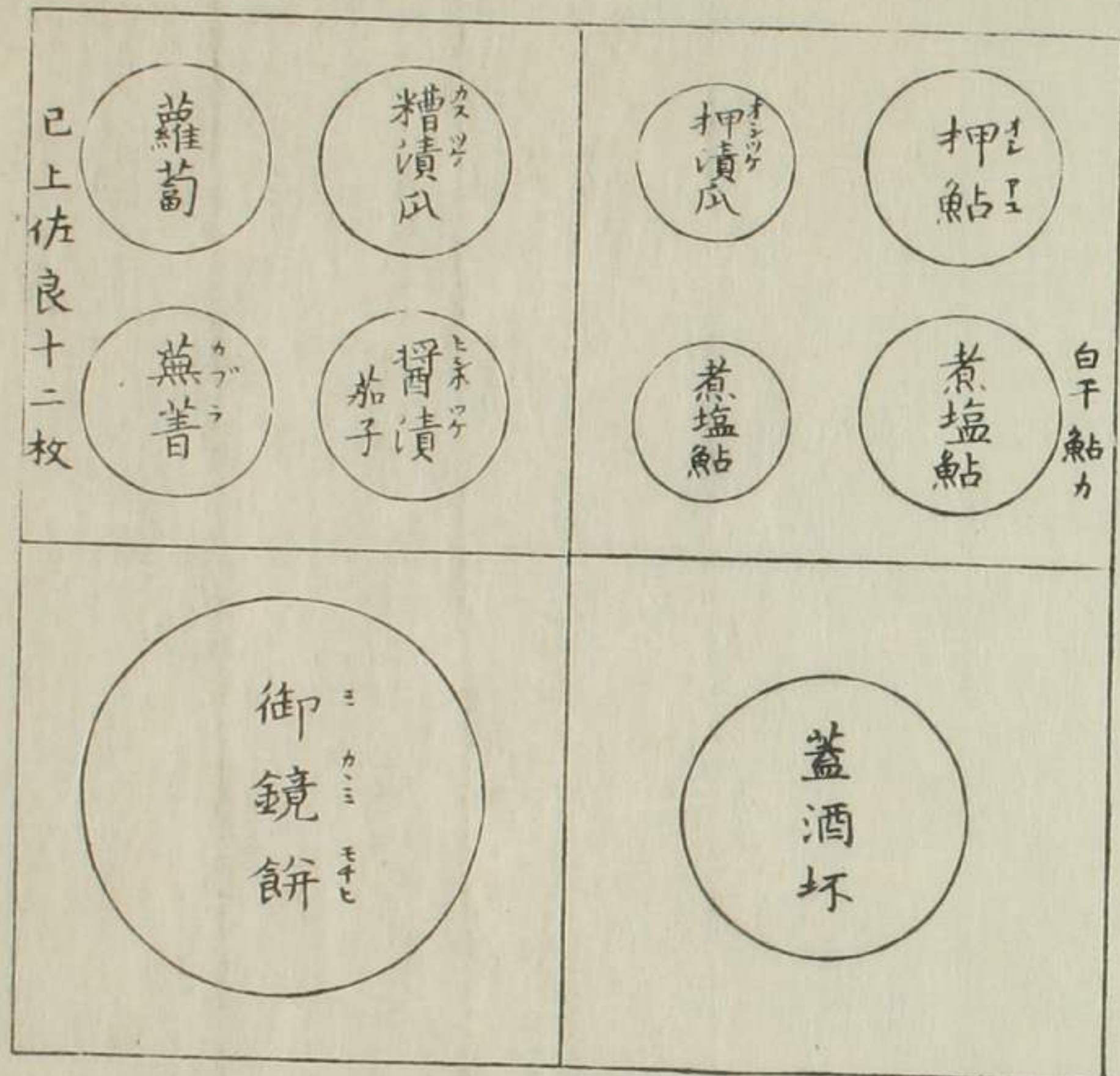
三箇日同前也
御臺盤所供之

近代鯉雉鯛鱸如此盛之



料 但不入自内膳司者

料 但不入自内膳司者



置鏡餅上物

讓葉一枚蘿蔔一株

押鮎一隻三成橘一

枚但近代一
成用之

御鏡餅三枚 日別自

藏人所出納渡之

此佗の用度餅子類

さゝハ省あり

誕聖三日、夕天皇設宴賜物、羣臣七日、夕皇后設宴賜物、後
 宮大臣以下相次獻饌、稱之養產、紫式部日記さぬすきの
 御子うませてけりし七夜に日のゆくはうしるやと
 くもあゆみのなる國のちよきのきれとくし又拾遺集
 産屋の七夜よまかりて月かむむハる茶代と較ふれハ
 かりし今日地七夜あまらるる
國柱按よ吾邦七夜の敷
 邦七夜の敷
 神母七代よ
 又て祝生人之七、又敷亡人之七、尚志編よ載り吾書
 言亡人之七、舊事紀及鎮火祭祝詞よ出やり洋子書紀通
 證よけり又按よ北戸録云嶺南俗家富者婦産三日或足
 月洗兒作團油飯其曰足月昂濺月也と我ハあ養育
 と日足と云足月と仰るるはとあまらるる今小兒の襦袢と日足
 と稱するハ是も標きり存藩まで兒初て生て生て神子泣
 てはるよ産衣とつもののとあまらるる製り布と神子泣
 添袖よく色深きとつもののとあまらるる製り布と神子泣

の也其律文畧装束地紋乃三重襷了者類に因按よ
 吾藩まで産衣と稱すハ書紀よ襦袢乃襦字と多須伎と
 訓まらる者乃遺製よ也源氏爲雲卷よ姫君のたはら引結
 ちるるはつぎとてうけくはささといてあまらるる又
 抱多純糸一抱地の外にたはらふけふ結るるはとあまらるる
 昔ハ幼く小袖とてあまらるるはとあまらるるはとあまらるる
 垣州曰一回男女共に忌袴の時小袖とてあまらるるはとあまらるる
 也白一条帝の御袴着り始め時小袖とてあまらるるはとあまらるる
 小畧如打敷治承四年東宮御着袴の時存知乃人あまらるる
 沙衣の製りて用おらるるはとあまらるるはとあまらるるはとあまらるる
 子襦袢の製りて用おらるるはとあまらるるはとあまらるるはとあまらるる
 者に其製りのきまらるるはとあまらるるはとあまらるるはとあまらるる
 朝世紀曰秀才判官兒百日也予食餅と何り又東鑑頼朝
 卿若君五十日百日儀賜人々十字十字ハ餅の事也晋史
 拆住十字不食とつるはとあまらるるはとあまらるるはとあまらるる
 文類聚よも載り饅頭とつるハ十字餅の目何り事○戴餅

忌言^{イミコトバ}とせり日次紀曰具足餅特忌以^{イタ}刀截之故以手缺之
 或植破之是謂鏡開又缺餅之名自此起^{ヒレヨロヒ}禮餅の本ハ凡軍
 陳の糧ハ糯米と最上と^{カシイ}糍粥のあし餅を^{カシイ}ひきて少く食
 いてと子く^コ飯を^イ遠く^{トホキ}齋^{モケラス}もも重なる^イもあし^イ餅を^イ餅と
 あし^イ餅は^イ隙時に^イ煨燻^{アツク}バ即食^イゆ^イ又^イ片餅^イ強^イ餅と
 つももの^イと^イく^イよ^イは^イ餅^イも^イ餅^イつ^イあり^イ○^イ廿日^イ正月とい
 ふ^イとハ^イ今も^イ歳内^イ法^イ圓^イ法^イ祭^イの^イ節とし小豆餅或ハ小豆
 強^イ餅^イと^イく^イの^イつ^イい^イも^イよ^イと^イなり
拾遺記云江東謂正月
廿日為天穿日用紅纒
繫餅置屋上謂之補天穿○歲時記
ハ補天餅と云え秘笈にも其事あり
○新草餅ハ大神宮
 儀式帳曰三月三日新草餅作奉二所 大神宮供奉御饌

殿文德實録嘉祥三年訛言曰今茲三日不可造餅以無
 母子也母子ハ今呼ふと這兒の^コお^イく^イとの女児^イ此^イ日^イを^イ
 這^イ四^イを^イ糸^イと^イ遊^イと^イ名^イく^イ艾^イ餅^イと^イて^イ節^イ物^イと^イ儀^イ也^イひ^イく
 ハ^イ新^イし^イき^イ鼠^イ麴^イ草^イの^イ餅^イ也^イと^イ後^イ又^イ艾^イの^イ餅^イと^イも^イあり^イ
 とも拾遺集三月三日に^イき^イく^イあり^イて^イ之^イ後^イも^イあり^イと
 て^イい^イく^イし^イく^イも^イよ^イめ^イる^イ藤^イ魚^イ實^イ方^イ三月^イの^イ初^イの^イ餅^イハ^イく^イは
 し^イ炊^イし^イゆ^イは^イ淡^イ粥^イと^イけ^イく^イも^イ精^イ也^イと^イ是^イ也^イ府^イハ^イ昔^イは^イく^イは
 此^イ採用^イの^イし^イゆ^イも^イは^イ按^イ朝鮮^イ賦^イ註^イ云^イ三月^イ三日^イ取^イ嫩^イ艾^イ
 の^イ風^イを^イ徹^イし^イゆ^イ我^イ彼^イ葉^イ雜^イ杭^イ米^イ粉^イ蒸^イ為^イ糕^イ謂^イ之^イ艾^イ糕^イ彼^イ我^イ
 の^イ俗^イも^イ似^イし^イゆ^イ我^イ彼^イ遊^イの^イ俗^イハ^イ開^イ化^イ紀^イハ^イ比^イ賣^イ那^イ素^イ寐^イ殊^イ
 と^イい^イく^イる^イあり^イて^イ今^イの^イ比^イ々^イ奈^イ遊^イ也^イとい^イは^イく^イる^イ風

俗と云々るに神宮女御集らるに地はせし時ありしに
その神の法ゆとよまりつるに江家次第曰有常
阿未加津土器撤て其後供比々奈阿未加津ハ春雨鈔ハ
天兒と書る即天目勝ゆて鈔女命と出づる故事とい
ひ源氏談曰十は娘ゆる人ハいふ遊ハ忘ゆる者
沈み我曰さふし方遊ま地ゆふ地ハ湖邊日次紀ハ
上ハ已雖遊序是贖物の義ゆて所謂這兒ハ神珍の撫物と
且又比々奈記ハ比々奈といふと少考名といつ
る名を省くるなり少考名ハ顔形少考とせしむるに
此神と祭ハ皆細き器と用う蓋解除の遺法也
漢
通典云後
三月上

已官民皆際于東流水齊以三月三日曲水會古禊祭也今
相兼為百戲之具彫弄巧飾增損先常文昌雜錄云唐歲
時節物三月三日則有綉人 浮の女ハ遊遊の家具一切の勝
偶等ハ遊遊ハ大さく高き儀ハやちつと
競ハ其父儀ハうらやみわきて糖饅肉餡壹是ハ
巧を極め珍と撰て客ヲ夸る人ヲ撰とせしむるの月
のみめと地をえゆハ其費とせしむるは源氏の時ハ
徒ハ嬰兒の時よりして其再志しるの服食ヲ撰とせし
然に趨志しるの嫌ともいふは源氏の時ハ
まらハ遊遊ハ忘ゆると又紳書ハ遊ハ
十三歳まで天癸未至時ありし今ハ女子ハ

の冥も生数よそのの二百りの机のといとあさま
 つるしきさうどいなやこけつしととの志まふしよ
 臣同出度清事とて改えありて嘉祥とけりきめさせお
 ちて六月十日のあん事いとせまふりよるよ
 こし民安く國豊なれハ此ふとつとめて高文おこな
 せあふなるしとろとほりも少餅とて少儀物と祀
 る事あしあれハ三日の日のもこ祭とおれく蓋嘉
 祥申泥言河のし来三月よ母子徳あまがゆゑよ六月
 みはましうは遂よ後の係ともなむしと也 挿事よて
 はか川うと喝あるとり也あは納涼會あふりよとてあ

日次紀曰嘉祥和 禁裏威五色餐弁諸肴於兩土器各
 紙蓋以十六錢求得物之遺意也按二世諺問答東見記等
 六文とん食物とて供湯とせしと踐昨の後伴の事と
 傳物とん此日よ行まよしとせろハ蓋嘉祥と嘉定
 と字あつと重なるるあさし又夏の土王と餅と食ふと
 歳時記よ六月伏日宜作湯餅食之名曰辟惡又和 豚餅
 樂部よ嘉祥樂あり太田磨也所よりと云

 ハ政事要畧引延喜藏人式曰十月初亥日内藏寮進殿上
 男女料餅年中行事秘抄よ柿白柿とて以て於朝餉方卷
 しめ御令又令為猪子形以綿裏之柿夜御殿慶四角蜻蛉
 日記よ嘗ういの御いうよあのころりつとつりあ
 ころりよ万世とよぼふ山づるあのころりつとつり

あつよるいあつし

日次紀曰禁裡玄猪餅賜赤白黒之小餐餅於羣臣有差也女中御下頭

伊豫局調進搗餅木臼及木杵今日春之謂韋著搗与著訓同祝言其就福也而春餅者敷裳曰下奏相歌蓋猪者多子故此日為餅以祈子孫蕃息也凡十月有三亥日則始用小餐及銀杏忍草中用小餐及菊花忍草終用小餐及楓葉忍草凡所賜之餅色典侍黒者内侍白者以下赤者又曰翌戌日攝津能勢加土大夫献餅於皇宮及上皇宮稱之能勢餅皆恒例矣 ○子のころ餅の事源氏流は縁のあはいらり

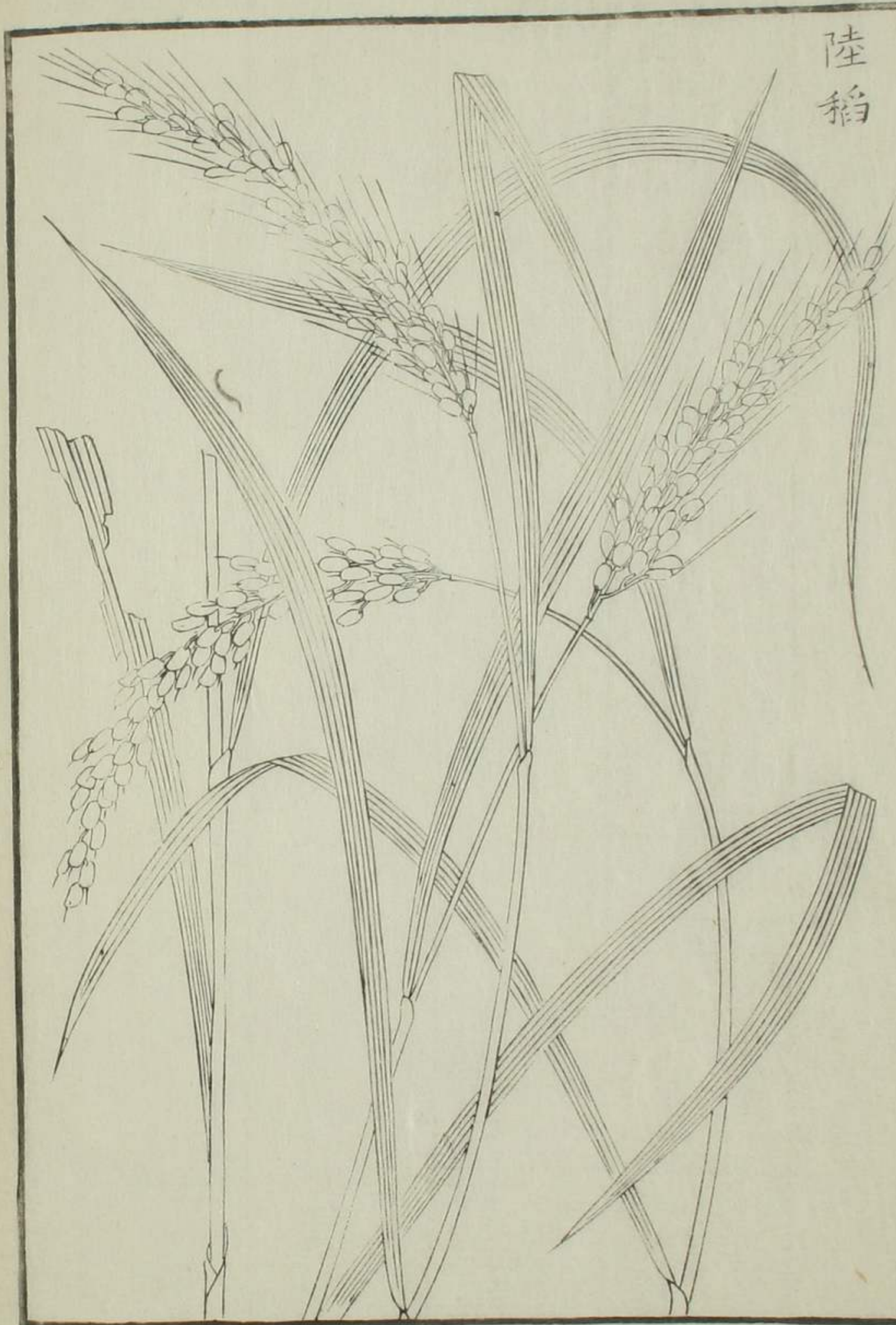
まねもへりむむ三り一よくとほらんがしとほり子のこはいくらもねくせんといふと最日亥日候と翌日子今もあつあり又三り一ハ四杯といふ我ふと申此より四の字ともぐかりて三り一といひし史記晋悼夫傳よ於今三之一也とも本朝文粹小右記天元元年四月三之一ともいひし存つる

月十日左大臣頼忠公一女入内道子十二日子始参上殿下同参餅四種盛銀盤今ハ元服ふとらるゝもの合の物てふよも餅盛ふと何り四季漢又十月亥の子りらひぬしけりハ十三のちらひぬよあつとハ十二巻てまつりてあつとらるゝもの清きよぬれさせたはしほしあつとらるゝもの清きよぬれさせたしけりぬあつとらるゝもの清きよぬれさせたと但馬の國より嫁て亥の子りらひぬとらるゝものと國史よけり此月の清事とて子夜行といふ書よハ十月ハ亥の月あつて亥の日用らるゝとて亥ハ子と一年

の月の教をうるふよハ十三うみてめてさくあはれし
 きまていみしまりのあれごとくおこなひしよし付
 る掌中曆子亥子の儀七種の粉と合て作る七種の粉ハ
 大小豆豆カケ豆胡麻粟柿糖あり世流問答より十月上の亥日
 の餅の事ハ内蔵意よりもは其威積の形嚴重あるより
 げんてうといふくくまり是今の十月亥猪の俗節と見
 えたり○三夜餅ハ中右記寛治五年十一月二日女御入
 内之後有三夜餅事件餅民部卿所被調進也是高年之人
 所役者主上入御帳之後関白殿取之令進○季子餅ハ臘
 月朔日の朝に食ふイヒヒ餅なり故よあの朝を餅月立とい

ふ又川にづる餅ふど留り○枕冊子にくまこのひら
 きともいふどと物よ取れてといふひらきともい若
 々ののくともといふたもと注やり○柿餅ハ白柿を
 眷て餅とあともあり燕朝樂事云正月朔日簗又片餅堅餅
 凍餅ふどといふ多し又赤豆と擦て煮る餅をぜんさい
 餅といふ善哉餅もて長崎唐人餅ハ肴板と出して
 賣賣を梅村裁筆よ神在餅と書べきよしいつハあふ
 日○或人曰七月中元靈祭の染を徒よ海川よ流し捨ハ
 せんふしむづくは路頭の乞西又其へくくんとて
 信の施餓鬼あらんがし

陸稻



白田稻

野稻

岡稻

早稻

岡穂

本朝食鑑

俗云陸

と云あり

と云あり

陸稻

六書故淵鑑類函稻性宜水亦有同類而陸種者謂

六月至九月

乃獲北早稻齊民要術早占農書占城禾國朝

方地寒

十月乃獲早稻齊民要術早占農書占城禾國朝

黑穀米

格物占稻本艸雷稻西事尖米黃秬以上

類蒙按

子細目子占城稻と云て稲の一名と云ふハ浮

と云え

と云え

番名

アケケルレイスト

岡稻

ハビツ 皇孫瓊々杵尊襲の高千穂峯へ天降玉

ひし

時深霧にぎはへし 晦蒙 此稻穂と云て打撒玉

しつは忽に開明なる事と成り居る所の高山千穂峯
の名はあまのりる今其地は陸稲多くける事といふ
たと日向風土記に載り又その峯は雲霧常におほひ
りる高千穂島嶽といふなり也 此高千穂峯は昔今霧
らるは同國曰杵那高千穂山はるまきれて云ふ
日とに國郡を伴はらに割られし後そより大むし
地面とおのり胸してきくおし量るもそ夫古事記に高
千穂之久土布流多氣と云ふし書紀にも八襲之高千穂峯
一みハ漆之峯とも亦穂日とも穂觸とも又久土比泥
布流ハ穂日引く言めて日向の日向と豊久土比泥
別宮所の名ありて今京平安城とせし山嶽の根と
皇宮所の名ありて今京平安城とせし山嶽の根と
其地域の左右とハあへて高千穂とせし山嶽の根と
のこまづべつはさてそ國といひし山嶽の根と
隅の係て桓武紀に霧島之事と贈於郡曾乃峯といふ
て古の添之峯高千穂峯久土布流多氣ふとハ昔今の

霧島嶽ふるを考へよ又此東峯に神代靈牙一枚と存
體也今山に植はしと葉は新嶽現社と云ふ神
大乃己に隆出は然と天明初池田某者撰作て傍に立
此と除去し事の悪疾を去つ偽牙樹し吾先族の事と
西遊記に此偽牙尚在よし以通證に先族の事と
皇孫西州子傳縁て邊疆を理め而姓を安しむ編植と
お撒まふとらるハ此其民を耕種を教導すむいしよし
おて々も種うるわざは撒らむとらるしよし
而後始て天沛陰日御蔭を伴ふ事と云ふも
し胡原夢夕深霧を伴へ忽ち野を傳て恰と青霄と
うたつと王澤と被り 此かく傳りてましよわさて
撒

裁られしハ陸稲^{ツカシ}ありてその甚^シなるも霧島^{キリシマ}の地ニ
 ハ歳々種^{タネ}を^シて自生^シせ^ル稲^{イネ}多^クしと云^フるも
 紀中^{キナ}此文^{コノ}より^シ且^カは^クの地^ノ乃^チ氏^ノ相^ノ傳^ハて^ル生^ケ種^トと
 且^カ霧島^{キリシマ}稲^{イネ}の名^ナを^シ存^スし^ルるもハ少^ク緑^クあ^リぬ事^トあり^シせ^ル
 今^{イマ}も^モ西^セ州^{シュウ}の農夫^{ノウブ}ハ稲^{イネ}の初^{ハジメ}穂^ホを^シて必^ズ霧島^{キリシマ}神^{カミ}
 廟^{ミヤ}ニ献^ルぜ^ル俗^{ソク}の恒^{コト}と^シて^ル所^ヨ由^ユに^シて^ル此^{コノ}
 吾^ガ邦^ノの陸^{リク}稲^{イネ}は^シた^カれ^ル始^{ハジメ}と^シて^ル按^ス西^セ土^ドの
 一^{ヒト}ハ皆^カ陸^{リク}稲^{イネ}と^シて^ル本^ホ州^{シュウ}時^{トキ}珍^{ジン}云^フ古^コ者^ノ惟^カ下^カ種^{タネ}成^ル畦^ヰ故^{コト}
 祭祀^{サシ}謂^フ稻^{イネ}為^ス嘉^カ蔬^ソ此^{コノ}陸^{リク}稲^{イネ}の證^シを^シ夫^ツ下^カ種^{タネ}成^ル畦^ヰと^シて^ル
 ハ^ト泥^{ドロ}津^ヅの中^ノ畦^ヰと^シて^ル又^{マタ}詩^シ

周^{シユ}頌^{ソウ}ハ豐^{トウ}年^{ネン}多^ク稔^{セン}と^シて^ル稔^{セン}ハ稻^{イネ}利^リ下^カ濕^シと^シて^ル稻^{イネ}小^コ
 して^ルハ下^カ濕^シと^シて^ル稻^{イネ}小^コと^シて^ル稻^{イネ}小^コと^シて^ル稻^{イネ}小^コと^シて^ル
 稲^{イネ}小^コと^シて^ル稻^{イネ}小^コと^シて^ル稻^{イネ}小^コと^シて^ル稻^{イネ}小^コと^シて^ル
 此^{コノ}の^ノ形^{カタチ}状^{シヤウ}全^{ケン}く^ク水^{スイ}稲^{イネ}の^ノ多^クなり^シ次^{ツギ}早^{ソウ}晩^{バン}赤^{セキ}白^{ハク}及^{ツキ}糯^ヌの^ノ種^{タネ}
 類^{ルイ}各^{ガク}あり^シハ^ハ八^{ハチ}十^{ジュウ}八^{ハチ}夜^ヤの^ノ最^{サイ}後^ゴに^ニ撒^シて^ル八^{ハチ}月^{ゲツ}中^{チュウ}旬^{ジュン}に^ニ
 ハ^ハ取^{トル}との^ノ子^コ霧^キ島^{シマ}野^ノ稲^{イネ}ハ^ハ稔^{セン}糯^ヌと^シて^ル白^{ハク}米^{メイ}と^シて^ル黒^ク米^{メイ}と^シて^ル
 釜^{カマ}に^ニ長^{ナガク}く^ク糲^シ米^{メイ}と^シて^ル白^{ハク}米^{メイ}と^シて^ル黒^ク米^{メイ}と^シて^ル
 釜^{カマ}に^ニ火^ヒを^シき^テ煮^クき^テ食^スふ^ル事^トあり^シと^シて^ル御^ミ實^ジ子^シと^シて^ル
 鮮^{セン}百合^{リョウ}と^シて^ル芒^{マウ}長^{ナガク}と^シて^ル出^デと^シて^ル黒^ク糯^ヌと^シて^ル
 飯^イ兩^{リョウ}節^{セツ}日^{ニチ}下^カ萩^{ハジ}子^シ刈^カ春^{ハル}の^ノ種^{タネ}多^クし
 野^ノ之^ノ稻^{イネ}乾^{カン}



凡苗二三寸も浅くする時より耘耔して其後力加へば
 一糞十分水と澆きし肥されハ葉の茂て穂満るも又
 早やけぬと澆くるは僻遠り僻遠りの地ハあつてし
 勤て土おぬいせよ其のおはまればりやうやまふは
 穫収ハ其の福の導と回し○農業全書曰野稲の種と水
 浸れふと二三日おしやれば日よつくりの少しは
 らくと足て反肥と用ゐて横筋と涼くきりまの筋足ら
 とにむくまき土をぬくし
 種麥治地卑豫浸一宿然後打潭下子用州灰和水澆之
 鋤草一凡路澆糞水一次至於三即秀矣と何の戦解述は
 なる○凡路澆糞水一次至於三即秀矣と何の戦解述は
 なる○凡路澆糞水一次至於三即秀矣と何の戦解述は



炊米圖

授時通考云白秈一小秈玉斑秈齊頭白六月白赤米
 の類ハ白米也其類其金城福のときハ赤米也
 るへし梅子登凡志の凡志ハ悉くつゝ語の轉也此
 等の稔稻の掬搗く米ともつゝちづゝ煮蒸て米となす
 よりのとつゝ又梅子登凡志ハ即燒蒸あり
 物と煮とたきたくつゝ登凡志ハ即燒蒸あり
 火ともやもせはつゝ同蒸が味とけ乾磨といふ此の蒸
 ぼともつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 ぶつて磨搗とすハ穀の利もつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 耗し早く駐カ必蒸磨をまゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 夫費がゆるるる多き乾磨は他ともつゝつゝつゝつゝつゝ
 如此なるハ上入

の時を^{ハシヤン}懸^{ハシヤン}賃^{ハシヤン}とくを^{ハシヤン}納^{ハシヤン}るあり 今俗に唐に干あり 又舶来
 の種子^{カラ}唐^{カラ}より^{ハシヤン}赤^{ハシヤン}と^{ハシヤン}白^{ハシヤン}し^{ハシヤン}る^{ハシヤン}の^{ハシヤン}河^{ハシヤン}を^{ハシヤン}存^{ハシヤン}名^{ハシヤン}多^{ハシヤン}伊^{ハシヤン}登^{ハシヤン}
 知^{ハシヤン}受^{ハシヤン}々^{ハシヤン}の大^{ハシヤン}冬^{ハシヤン}米^{ハシヤン}也^{ハシヤン}と^{ハシヤン}る^{ハシヤン}を^{ハシヤン}え^{ハシヤン}其^{ハシヤン}河^{ハシヤン}を^{ハシヤン}所^{ハシヤン}乃^{ハシヤン}赤^{ハシヤン}米^{ハシヤン}と^{ハシヤン}混^{ハシヤン}し
 て^{ハシヤン}統^{ハシヤン}て^{ハシヤン}大^{ハシヤン}唐^{ハシヤン}米^{ハシヤン}と^{ハシヤン}し^{ハシヤン}唐^{ハシヤン}米^{ハシヤン}と^{ハシヤン}し^{ハシヤン}て^{ハシヤン}占^{ハシヤン}城^{ハシヤン}稻^{ハシヤン}と^{ハシヤン}混^{ハシヤン}濁^{ハシヤン}と^{ハシヤン}る^{ハシヤン}と
 のは^{ハシヤン}播^{ハシヤン}ざ^{ハシヤン}る^{ハシヤン}の^{ハシヤン}を^{ハシヤン}き^{ハシヤン}ち^{ハシヤン}り^{ハシヤン}大^{ハシヤン}唐^{ハシヤン}米^{ハシヤン}ハ^{ハシヤン}大^{ハシヤン}冬^{ハシヤン}米^{ハシヤン}の^{ハシヤン}混^{ハシヤン}字^{ハシヤン}あり
 南^{ハシヤン}産^{ハシヤン}志^{ハシヤン}引^{ハシヤン}閩^{ハシヤン}中^{ハシヤン}記^{ハシヤン}云^{ハシヤン}秋^{ハシヤン}種^{ハシヤン}冬^{ハシヤン}熟^{ハシヤン}曰^{ハシヤン}晚^{ハシヤン}稻^{ハシヤン}歲^{ハシヤン}一^{ハシヤン}熟^{ハシヤン}者^{ハシヤン}曰^{ハシヤン}大^{ハシヤン}冬^{ハシヤン}本
 州^{ハシヤン}時^{ハシヤン}珍^{ハシヤン}云^{ハシヤン}秬^{ハシヤン}似^{ハシヤン}稷^{ハシヤン}而^{ハシヤン}粒^{ハシヤン}少^{ハシヤン}始^{ハシヤン}自^{ハシヤン}閩^{ハシヤン}人^{ハシヤン}得^{ハシヤン}種^{ハシヤン}於^{ハシヤン}占^{ハシヤン}城^{ハシヤン}國^{ハシヤン}其^{ハシヤン}熟^{ハシヤン}最
 早^{ハシヤン}六^{ハシヤン}七^{ハシヤン}月^{ハシヤン}可^{ハシヤン}收^{ハシヤン}今^{ハシヤン}此^{ハシヤン}方^{ハシヤン}一^{ハシヤン}船^{ハシヤン}来^{ハシヤン}と^{ハシヤン}る^{ハシヤン}もの^{ハシヤン}、^{ハシヤン}う^{ハシヤン}ら^{ハシヤン}大^{ハシヤン}冬^{ハシヤン}米^{ハシヤン}一
 二^{ハシヤン}種^{ハシヤン}よ^{ハシヤン}色^{ハシヤン}と^{ハシヤン}は^{ハシヤン}威^{ハシヤン}葉^{ハシヤン}異^{ハシヤン}と^{ハシヤン}編^{ハシヤン}と^{ハシヤン}閩^{ハシヤン}種^{ハシヤン}と^{ハシヤン}り^{ハシヤン}獲^{ハシヤン}当^{ハシヤン}り^{ハシヤン}又^{ハシヤン}一^{ハシヤン}種^{ハシヤン}唐^{ハシヤン}
 之^{ハシヤン}と^{ハシヤン}採^{ハシヤン}と^{ハシヤン}る^{ハシヤン}もの^{ハシヤン}は^{ハシヤン}生^{ハシヤン}葉^{ハシヤン}菰^{ハシヤン}乃^{ハシヤン}と^{ハシヤン}く^{ハシヤン}長^{ハシヤン}大^{ハシヤン}あり^{ハシヤン}て^{ハシヤン}實^{ハシヤン}多^{ハシヤン}し

凡て野稻の條より

此^{ハシヤン}もの^{ハシヤン}水^{ハシヤン}陸^{ハシヤン}二^{ハシヤン}種^{ハシヤン}あり 陸編ハあり 又^{ハシヤン}稷^{ハシヤン}米^{ハシヤン}と^{ハシヤン}一^{ハシヤン}類^{ハシヤン}不^{ハシヤン}して^{ハシヤン}米
 赤^{ハシヤン}き^{ハシヤン}もの^{ハシヤン}と^{ハシヤン}紅^{ハシヤン}玉^{ハシヤン}と^{ハシヤン}云^{ハシヤン}其^{ハシヤン}莖^{ハシヤン}穀^{ハシヤン}並^{ハシヤン}に^{ハシヤン}常^{ハシヤン}編^{ハシヤン}子^{ハシヤン}行^{ハシヤン}傳^{ハシヤン}あり^{ハシヤン}但^{ハシヤン}其
 芒^{ハシヤン}穎^{ハシヤン}極^{ハシヤン}て^{ハシヤン}赤^{ハシヤン}き^{ハシヤン}耳^{ハシヤン} 按和名鈔引廣志赤穰稻あり其の或昂
 米^{ハシヤン}稻^{ハシヤン}蟬^{ハシヤン}鳴^{ハシヤン}稻^{ハシヤン}字^{ハシヤン}の^{ハシヤン}名^{ハシヤン}は^{ハシヤン}其^{ハシヤン}白^{ハシヤン}米^{ハシヤン}稻^{ハシヤン}子^{ハシヤン}對^{ハシヤン}へ^{ハシヤン}い^{ハシヤン}農^{ハシヤン}人^{ハシヤン}ハ^{ハシヤン}其^{ハシヤン}の
 苗^{ハシヤン}と^{ハシヤン}え^{ハシヤン}知^{ハシヤン}り^{ハシヤン}葉^{ハシヤン}引^{ハシヤン}と^{ハシヤン}手^{ハシヤン}に^{ハシヤン}拔^{ハシヤン}去^{ハシヤン}と^{ハシヤン}る^{ハシヤン}又^{ハシヤン}之^{ハシヤン}米^{ハシヤン}ハ^{ハシヤン}其^{ハシヤン}葉^{ハシヤン}細^{ハシヤン}く^{ハシヤン}短^{ハシヤン}
 く^{ハシヤン}最^{ハシヤン}柔^{ハシヤン}軟^{ハシヤン}少^{ハシヤン}して^{ハシヤン}其^{ハシヤン}粒^{ハシヤン}小^{ハシヤン}く^{ハシヤン}也^{ハシヤン}し^{ハシヤン}多^{ハシヤン}ハ^{ハシヤン}世^{ハシヤン}と^{ハシヤン}し^{ハシヤン}偶^{ハシヤン}々^{ハシヤン}河^{ハシヤン}と^{ハシヤン}
 の^{ハシヤン}色^{ハシヤン}短^{ハシヤン}く^{ハシヤン}軟^{ハシヤン}あり^{ハシヤン}又^{ハシヤン}赤^{ハシヤン}白^{ハシヤン}兩^{ハシヤン}種^{ハシヤン}河^{ハシヤン}を^{ハシヤン}白^{ハシヤン}き^{ハシヤン}もの^{ハシヤン}も^{ハシヤン}多^{ハシヤン}く^{ハシヤン}芒^{ハシヤン}多^{ハシヤン}
 く^{ハシヤン}稗^{ハシヤン}米^{ハシヤン}と^{ハシヤン}も^{ハシヤン}に^{ハシヤン}白^{ハシヤン}し^{ハシヤン}或^{ハシヤン}ハ^{ハシヤン}稗^{ハシヤン}ハ^{ハシヤン}淡^{ハシヤン}紅^{ハシヤン}少^{ハシヤン}して^{ハシヤン}米^{ハシヤン}の^{ハシヤン}色^{ハシヤン}白^{ハシヤン}と^{ハシヤン}河
 河^{ハシヤン}并^{ハシヤン}に^{ハシヤン}之^{ハシヤン}と^{ハシヤン}白^{ハシヤン}之^{ハシヤン}米^{ハシヤン}と^{ハシヤン}云^{ハシヤン}○^{ハシヤン}凡^{ハシヤン}乾^{ハシヤン}磨^{ハシヤン}と^{ハシヤン}懸^{ハシヤン}磨^{ハシヤン}との^{ハシヤン}實^{ハシヤン}あり^{ハシヤン}乾

磨らハ穀とお浴せしむ磨りてあり蒸磨ハ穀と俵
 子裏水よ漬し瓶あて蒸て稗と去りて其製造の
 ちぐいみ其味割桑大よ蒸まり○此もの早中晩及
 糯の種族あり三月中苗代よ耐つくる也率其種穡の時
 節ハ常稲よ異あり○此ものハ稗稲よよろしかるが
 内瘠土乃停田ふとよ植るものあれハ四月の後最よ浸
 種十ハ八九までハ苗代をかくと昂又実播して稍白芽
 と出を耐つくるあり其耐て莠いるの法ハ常とおれ
 しく既に種撒あんとも耐前に行きよりの田土と干
 乾し浮土も肥或ハ馬糞と晒しいと細やうにかき碎き

粉のこくくして白沙よ種子を採りてさるこし麦粟く
 るよらとし○凡田一畝ハ種子一升の積みして畚の
 ごとく畚よ入て三指一撮ふして五寸指は撮つては
 あり又長手の府袋を感て双のふとく種を撮り三
 尺ちどもおさまりに投撒するは概疏の差を基の秤
 の整るるごとく耐耐ありとの敏あるともよなは塊
 せつらして擲棄るるよし是之農夫の熱のわざあり○
 早稲ハ毛實とてそののれ子し三月中に耐耐七月初よ
 收りてるなり
 世ふく稗米共 中稲一名赤やばしとてい
 ともつる蓋大冬の訛あるは是洋米の種あり又横川米

子 梶山なりつり 晩私ハ大さばしきも云世 糶あ
 赤し 〇大稲秣ハ南海球美島オホノチに生るる赤米オホなりて粒
 完太し味もよくもりけしもの為田ヤセよりくくすよりく
 厚地ミエより育るるもハ反てこのり何くもく天生の異
 種あり 〇糯秣ハ晚稲多し 短く粒も 〇糯秣ハ梅子と
 つりのあり糯も米粒赤く餅餅に似して色も赤し
 とも珍品メツラシなりけしもの本南島の申米國モトの産なり此島
 米イトはよくしき名の負ソムカさるるもいちよし
 此島の稗莖穂房完脆がゆゑに風多くと吹ハきまう実
 殖オチ偃ンして一粒も粒も細るるも多しを刈乾カリすと二

日計と細く細架トシレシメとして煮シク煮コしぬるもの石イシとしぬ手
 子莖本ワラモトと把トツてお敲ウチハらうく落オツちて小麥コムギとぬれし乃熟チ
 して穀殻モミ磨カらうと乾磨カラらうり炊カキて硬コしとく
 とも白秣シロトホシハ粳米ワルシより考カウして冷ヒヤまは堅コバく粒イシ粒コメの赤く
 強断ドクキと傷イロムぬし又酢ス及ヒ燒耐ヒ造ツクるる常稲トコと相アおれし 〇
 蒸磨ハシとも穀モミと川カハより漬ヅクむと一七日ヒトシ汗泉アサの流ナガみきふハ
 くらめて漬ヅクなり泥ドロ沼ヌマ一漬ヅクものけきつきハ宜ヨシしとく
 とも飯イハより作りて焼カキ奥ウラあり又大川オホカハより漬ヅクむと時トキハ粒
 飯イハ好ヨクと空カラて酒サカベ使ツカひの旨ユク一ヒトちうして蒸カまのりけ二三日汗
 漬ヅク汁ヅクと溜ツルみとありと 蒸カまのりけ二三日汗
 漬ヅク汁ヅクと溜ツルみとありと 蒸カまのりけ二三日汗

色信^シ感^カを^シて^ス穀^{コク}を^シて^ス稗^ヒと^ス去^キふ^ルと^スり^ニ急^キに^シ米^{コメ}少^ク許^スと
 此^コんと^ス粒^リを^シて^スハ^ニ粒^リと^スけ^テ足^ルを^シて^ス踏^ミ落^スし^テ鍋^{ナベ}釜^{カマ}を^シて^ス煮^ク沸^カ
 し^テ延^ビを^シ攤^ヒけ^テ白^クして^ス搗^キむ^ルと^ス煮^ク秘^シと^スつ^テ煮^クる^ル凡^ソ悉^ク米^{コメ}
 の^中白^ク悉^クハ^モ形^ガさ^マか^クと^ス稍^シ上^ル膳^ズを^シて^ス供^スふ^ル或^シ
 蕎^{ソバ}麵^{メン}乃^チ佳^ク代^リと^スる^ル是^レも^シり^ニ煮^クて^ス悉^ク米^{コメ}ハ^ニ性^セ素^ク脆^クて^ス粘^ネ
 て^ス粘^ネ氣^キ多^ク搏^ク飯^イを^シ魚^ノを^シて^ス炊^クて^スを^シ殖^シ盛^ルと^スつ^テと^ス秘^シ
 二^杯ハ^一稷^リ一^杯も^シ何^レと^スて^ス力^カと^ス役^ツふ^ル倣^フ工^ノと^スの^ふ
 と^け子^コを^シて^ス憊^ツや^シと^スて^ス但^シ貯^ルの^輦稍^シ合^フふ^ル
 場^ノ今^ニ醫^シ家^ノを^シて^ス赤^ク私^シと^スて^ス陳^チ倉^{ソウ}米^メの^用は^佳ふ^ルの^の
 あり^ニ存^スハ^一種^ノ稻^{コメ}と^スと^ス取^ル魚^ノを^シれ^ル○凡^ソ乾^カ磨^ズに^ある^ルハ

白^ク私^シ此^レ外^ニハ^一何^レと^ス精^シぬ^ルと^スと^ス赤^ク色^シ除^クぐ^ル而^シも^シ悉^ク米^{コメ}ハ^一能^ク
 穀^{コク}を^シて^ス赤^ク穀^{コク}剥^ク去^ルて^ス白^ク米^{コメ}を^シて^ス煮^クる^ルと^スと^ス煮^クれ^ルも^シ下^ル等^ノ
 づ^ゝハ^一播^クづ^ゝづ^ゝ○長^シ崎^ノ聞^ク見^ル録^ノ曰^ク唐^ノ土^ノの^某ハ^一膏^ノ澤^ノ
 多^クく^シ易^クく^シて^ス漉^クふ^ルに^努り^テ久^ク保^チづ^ゝし^テ穀^{コク}
 の^膏潤^クふ^ルに^努り^テ尺^ハ好^クい^フづ^ゝす^ル也^ノ唐^ノ人^ノ此^ノ地^ノ
 の^某の^質沢^クふ^ルに^努り^テ漉^クふ^ルに^努り^テと^スと^ス壯^クく^シ調^ヒは^ルと^ス
 尺^ハて^スと^ス称^ス款^ノと^ス何^レ此^ノと^スと^ス西^ノ土^ノの^稷米^{コメ}ハ^一好^ク方^ニ私^シ
 子^ノ擬^フづ^ゝと^スと^ス志^ス候^フし^テ煮^クる^ルに^努り^テ我^レ人^ノハ^一美^クし^ク稻^{コメ}を^シ飽^ム
 ま^テ啖^スふ^ルに^努り^テ私^シと^スハ^一人^ノ中^ニは^一齋^ノと^スと^ス羞^ムと^スる^ルハ^一自^ラ也^ノ
 あり^ニの^つり^ぬる^ル或^シい^フの^書る^ルもの^ハ太^ク平^ノの^化と

偷める者ハ武士さへ短兵長父の子誥ふる業と頼りし
遊藝子遊き術と請ひよとおおひ思ひ出家頭陀まで梵嫂
と拘持て恥とも心つりぬハ淺ましき子つけても肉土
ハ廣地あれハ小路くの住還さへ斯方の四五倍その
人志すまで盜賊不義のや頼ハ又斯方の十倍おとよも
るくろ先尋常の者と人の物を攘まぬハ稀ふてそれと
恥ともあやも次印て攘まれらると油断と多し此一
てもその暇の悪風俗ハ推さる一し女ふとも途中獨り
歩ハ其まゝ、^淫さる因、^淫親中子造はとがる能と鎖印不
して向の家へ昇着て鎖と啓き火事強動ふとの町ハ第

一女子と片付ぬハ盜去るは又女子ハ幼より脚と本綿
よて縛ゆめると歩行と不自由ふして淫奔やぬるもの
其上男子がちよきて女子少られハ貧漢ハ終身妻と有
おとよゆも大抵衣道と事として一生とるはさう清
の代も替りておとよりの柔弱なる風俗と戒懲て平生武
藝とあつし試場よてハ皆く露^キ又猪^ニ負と被さやると
云志くれハ吾人何様大相ふる遊もても志劍猪負不と
ハ何るまし又妻秘の食物よてと唐稻よけ様券るまし
我身の不埒さへあく稼うは一生妻好持ぬともあつ
ましかくは斯地よ生出しハ時よ取て身の毒ふるよや

籬



籬孫

比通知籬

和名鈔○即籬孫也尾張

比古波衣

新撰字鏡按比古ハ曾孫と比古古とつう

訓古言梯

細枝ありこは和名鈔ハ前漢天文志註

中謂桑榆孽

生為葆禾野生曰旅さハ字鏡ハ穀再生

比古波衣

と訓ハ和名鈔ハ木藥赤訓ハ地外ハ

古ハ

今ハ籬孫ハ好考ハ小田の去平の

曾於比籬

和字引手蓋比通知の轉ハ或云引ハ比古

引手の訛

蓋比通知の轉ハ或云引ハ比古

政全書云

烏口籬色黒而能水与寒又謂之冷水結籬之

品

日次紀籬後再生又生の謂此地

度生

籬者籬葉不堪用又生の謂此地

俗意

籬葉不堪用又生の謂此地

稻孫 廣雅稻已割而復抽曰稻孫 再熟稻 唐書開元十

四民月令養生要集等亦同 再熟稻 九年揚州奏

再熟稻一千八百頃 再熟稻 農政全書其已刈而根復發者

其粒與常稻無異 再熟稻 謂之再熟稻亦謂之再

種 金洲 白香秫 以上閩書南產 再生稻 字彙○秋玉

秩韻會毛氏云秩本再生稻刈 再生稻 而重出後先相繼故借為秩序字

蕃名 ヘルグルーイエンデレイスト

比通知ハ乾土あり水田乾て復生するも是より和名鈔

ハ自生稻の部ハ收りもどるも今築小秋りれる田

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

ハあつたつちの種ハぬハサと今はこれ秋もてぬり

夏四月遣田部連關於掖玖二年秋九月田部連等至自掖
 玖三年春二月掖玖人歸化ヒラケリ云々田部八田地民戸と掌ツカサス
 の官あり換田戸定民籍の事舒田部連掖玖在におと約
 一年是時より南島の田地戸數を檢校し貢賦の事因
 て約さしハハス其三年春二月掖玖人歸化宣子朝
 貢の始と云所謂掖玖亦々の流求あり事詳南島凡奄
 美島より以南沖繩ミナトナまでハ九月霜降の節稻田の苗代
 と下して臘月或ハ正月シメズ早苗と播種は扱ツカサスて
 子稻科コメノカのやうハ水芋と挿添ツケソフなり是地勢はよく稲のこ
 うハれハ滋カサス過カサスとて多量己子春は氣と交てより日

日ヒ子長茂五月ヒは成熱して刈収刈根より五六寸の所
 と切キりばハ流種ハよりハ刈ハ乃播種ハ立て秋晩ハの頃二度刈
 とするハのよしハ但ハ又ハと取ハてハハ本年の是沖繩ハと限り
 今田稼ハとてその種子ハあふとハハ絶ハてハ多量と多量
 是より天武紀乃多祢島ハよりハの即流求ハるをハ知ハる
今按凡ハいハみハ一ハ南島と云ハて掖玖多祢島ハ子
ハ往者皆經歷ハの由ハる跡ハあれハ也ハ警ハハハ南島人ハ川ハ辺ハ郡ハ七
ハ島と接ハて土噶喇ハと云ハつハカハボハとハしハ土噶喇ハハハ孝徳紀ハ始
ハて吐火羅國ハと云ハえハ齊明紀ハハハ觀ハ貨ハ邏國ハと云ハ都ハ貨ハ邏人
ハもハ云ハふハしハ或ハ本ハはハ墮羅人ハと云ハ注ハしハ又ハ續ハ紀ハハハ度ハ感ハ島ハと
ハ云ハふハのハ後ハハハ德島ハと云ハ播ハ音ハと云ハ古ハ今ハ嚴ハ音ハのハ轉ハありハ今
ハ七ハ島ハの中ハハハ寶島ハのハ音ハと云ハ齊ハ明ハ紀ハ注ハ或ハ本ハ墮羅ハハ
ハ蓋ハ今ハ七ハ島ハ中ハのハ平ハ島ハありハ此ハ流ハ求ハと云ハ接ハてハ多ハ祢ハ島ハと云ハ掖ハ玖

吐火羅も度感とも唱へしりおろしてさて其再熟の稲
 と初生の種の氣あつてもあるも南島の稲ハ唐山乃
 種のおろくも脆弱ありて斯方此種は次魚し山海經
 云交趾國有一歲再熟之稻異物志云交趾稻圖書編云界
 稻十月種次年四月熟是仲傳の録とされし蓋炎徼偏熱
 乃志りしむる新志より尚ふも是ら次又按通雅云
 多三收隋書婆登國有月熟之稻一月一熟○廣志云天竺
 稻歲四熟想ふも一月一熟一歲四熟の稻信よりり
 ろも殆ど食ふ夫西土まで酒と造は晋陶淵明彭澤令ハ成
 ろも造らざりし其田小懸ハ成林稻と種
 小とあり而斯方ハ此種を用ふ其田小懸ハ成林稻と種
 するもこれに專子とも懸て何と種晋書載ハ成林稻と種
 ハ飯米あかるしと造らざりし其田小懸ハ成林稻と種

氣象ゆゑは料田もよくて秋稻と種て擧て酒も造るの
 了見あり又天工開物云南方酒皆糯米所為又稻紀云釀
 酒宜用大師古造粉宜用小師古是西土方藥も入るの
 土の種ハ酒と造るも塔西土方藥も入るの
 皆種あり斯方産科等も用るものハ稻孫あり種を用れ
 て造るも是も由て觀ハ西土の糯米ハ斯方の種も擬べく
 其種ハ斯方の稻孫も準あり又和蘭人其地産の鳥類
 と齋しある船中糯米の粉と餌とに而唯糖の管あり
 以て羸弱て危ありヒホソリ者もハ斯方の種米と餌ハ恩
 小肥健也コエツテ斯方の糯米と餌ハ其熱氣の盛も種を粘粘
 て肥もむりりオホシ又生兒の視候も種粘と豫知子と産
 草臺衣も包と添て種ると古法とに

於呂加於比和名鈔稻和名鈔也。

野立生稻

糴亦作稻和名鈔引唐韻自生稻也。○糴音棹集韻未糴
光武紀嘉穀作嘉野族注寄也。不因播種而生。唐書馬燧傳
大曆四年兵亂後大早田中生。糴禾人頗便之注糴禾再生
也。唐書開元十九年揚州奏糴生稻二百一十五頃再熟。糴
一十八百頃此自生。糴孫。野稻吳志嘉禾三年由
為禾興縣。○唐地理志滄州本魯城乾符元
年生野稻水穀十餘頃。莫魏飢民就食之。
○通雅揚州生糴稻自生稻也。○
從字彙補今年糴災來年自生也。

蕃名 ウイルデレイト

おろかおろかハ即自生也凡播種と云ふて野生と云

この草多き茅苳カヤスナありて稲穂と秀ヒケるはあり本藩霧

島嶽の自然稻と云草ハ苳スナより輓チカゴロ近安永八年十月

朔日八隅郡檜島炎上して海中五の新嶼と涌出する

始檜島嶼頂の東南兩面嶼あり湖あり。水
他々云々を白し同一町嶼あり。湖あり。水
遊遊大流小を急急は先先檜島嶼嶼曰二あり。雨流
以雨ハ流流を急急は先先檜島嶼嶼曰二あり。雨流
果して朔日未刻未間より火を容容り前日地震地震あり。選
方敷方敷水水又當當の己午の刻刻中中の井井患患沸騰沸騰あり。選
出又海海水水急急を急急は先先檜島嶼嶼曰二あり。雨流
朔望の交交より蓋蓋液液の候候より今事事より因て附
係係於於是是檜島及比隣比隣の地沙沙反反障障積積て堆堆出出七尺許田畝
川谷川谷悉悉く埋没埋没し白沙沙渺渺々々は耳耳時に白沙原頭茅苳
自生自生し其末末各稻稻實實と結結凡凡類類と壘壘又新嶼新嶼其上上も播

種と侍む松の稚生茅此嫩苗叢茂て茅稜と云米粒と
 着て土民採食するもより皆曰天道人を殺すと蓋儀為
 火変新鴻涌出るとの續紀所載神護中大隅海中神造
 の島及同紀天平寶字八年鹿島信介村の前は化成三島
 せしより此の三島僅三度より今復新嶼と涌出と
 るは混沌再い來り溟津自生と云ふし故に其勢氣葱州
 化して米稻と茂り竹粟變じて米粒と成ふと云ふるも
 竹粟米粒と云ふは霧島嶽淡土の時より有り後又肥前國
 也人より傳はりしは客歲肥の雲仙島に大發して於
 雜樹叢生ふる出ると云ふは嶽の松樹ハ云ふを辨
 躑躅特多かりぬ米の生植ふかり島の湧出せし
 不剛わがせとおくろかしと云ふは溟津の米粟子や
 不剛わがせとおくろかしと云ふは溟津の米粟子や

のいあしと云ふは例嘗て其自生稻の種子と云て命
 よおりの合せたり也し
 して試み植むるも米と云はの核ハおとく葱子し
 て福多しと云ふは同のいりけやあき津ふれハ語多
 られさるハ上者自生稻と云ふものも是より固て葱
 知るる也
 按續紀和銅六年正月左京職獻稗化為米一
 莖淵鑑類函江表傳孫亮五年父趾稗草化為稻大日
 本史引畧記曰延長五年四月北山野穀旅生人競採之

成形圖說卷之十六終

